

農道新設で越冬環境の消失へ

— 邑知潟 —

沢田 隆

925-0047 羽咋市御坊山町13-5

VYU04102@nifty.ne.jp

石川県・邑知潟周辺ではガン・カモ類・コハクチョウが越冬する。

この地域は、コハクチョウにとっては北陸地方有数の越冬地で、最多飛来数は1,000羽近くとなり、「東アジア地域ガン・カモ類重要生息地リスト」の参加基準値を満たしている。また、環境省選定「日本の重要湿地500選」にもあげられている。

このような自然環境下で、邑知潟を縦断する農用道が新設された。潟周辺ではヒシクイの埒（最大羽数88羽）があったが、道路が造成されたため、越冬埒は消失し、

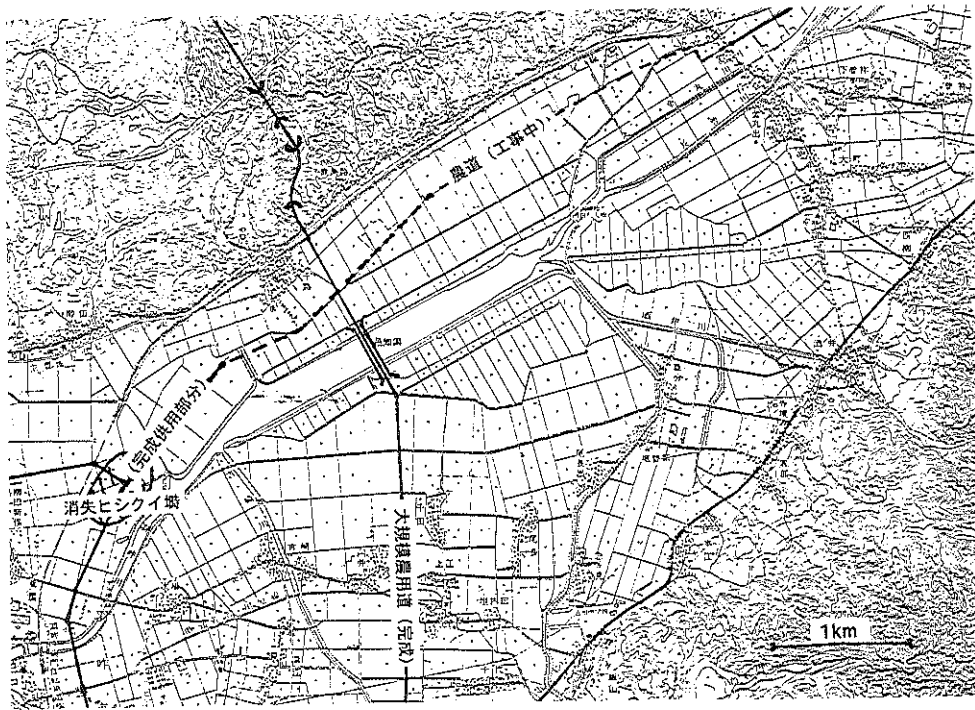


図1. 新設・工事中農道位置図.

Takashi SAWADA. Disappearance of goose wintering ground by establishment of new road.

渡り中継すら見られなくなった。このほか、新設農道の沿線ではオオタカ、ハクマ、サシバ、ミサゴの営巣が多数消滅した。

マガン、コハクチョウの採食環境沿いに、さらに新たな農道を造成中であり、マガン越冬数（最大羽数751羽）も減少した。この農道の開通後には、ハクチョウへの影響も予測され、冬鳥たちの越冬のための湿地環境消失が危惧される。

地元野鳥保護団体が農道計画に気づいたのは、6年前の道路造成中である。越冬環境への影響は容易に予測されたので、事業者(県)に路線変更や、市長、石川県知事宛に埒環境の保全に関する要望書を提出し、幾度も折衝したにも関わらず、保護策も見えぬまま工事は進んでいる。

事業者との折衝過程では、計画段階で国指定天然記念物ガン類が飛来しているという認識が無いことが明らかになった。また、ハクチョウは国内各地の餌付け報道

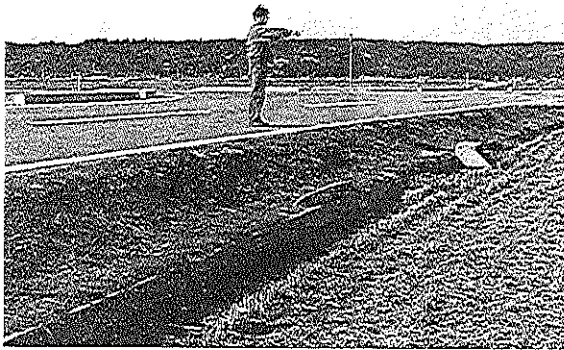
10版 2000年(平成12年)4月18日 火曜日 富山 三

邑知湖の北湖農道交差点。沢田隆さんが指さす方向と周囲はヒシクイのねぐらだったところ＝羽咋市柳田地区で

羽咋・邑知平野

鳥類保護連盟 知事に要望書

ヒシクイのねぐら復元を



「農道できて消失」

羽咋市の邑知平野を飛来して越冬する国指定天然記念物マガン、ヒシクイなどのねぐらが、「県事業の北湖農道の一部供用開始で消失した」として、日本鳥類保護連盟支部(時国公政支部)は、ガン類越冬地保護保護区を拡大するよう谷本正徳知事あてに要望書を出したことを十七日、明らかにした。

同支部によると、邑知湖周辺の湿地環境(マガン、ヒシクイの採食環境)を保護する目的で、一九九八年に開設された「東マガン地域マガン越冬地」に、冬鳥の採食環境を確保するために、農道の通行が妨げられるのを心配して、国際的にも重要な場所になっている。だが、一九九一年に造成した北湖農道

の開設で、ヒシクイなどのねぐらが消失した。昨年度には採食制限切れて餌が飛ぶようになったり、越冬は見られなくなった。同支部は「邑知湖は国内の渡り鳥の中継地にもなっていて、次の越冬への力を得る採食地として、飛来当該地では政府自身が責任をもつて生態環境の保全義務が発生している」と訴えている。

同支部の沢田隆事務局長(右)は「県は鳥類保護に関心が薄い。農道の位置をずらすなり、せめて車のライトが車の集まる場所にはかないように道路に光を遮る設備を設けてほしい」と話していた。同支部は羽咋市土木事務所、羽咋農林総合事務所、北陸農政局邑知湖農道防犯事業を設けたい要望書を出した。県農林水産部は一九九八年度同支部と申し合わせ、冬鳥は工事進行を心配して来た。農道を夜間の通行はほとんどない。同支部には影響はないと主張している。

図2. 関連する新聞記事1.

